

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 8 月 26 日
枚方市立第三中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

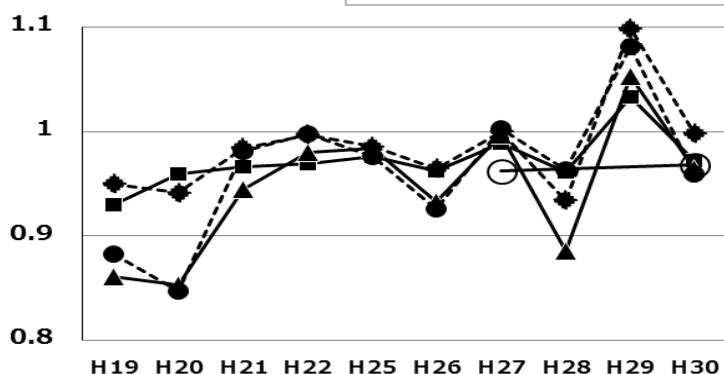
※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

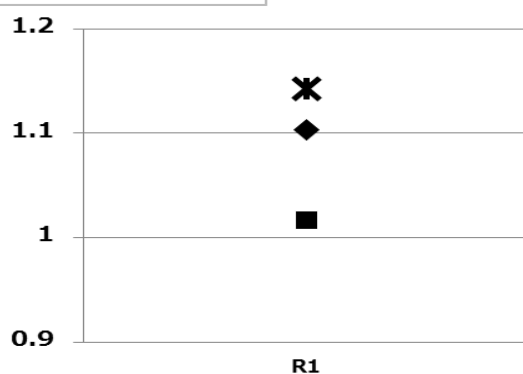
学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）

（全国の平均正答率を 1 とした経年比較）



■ 国語A ▲ 国語B ◆ 数学A ● 数学B ○ 理科



■ 国語 ◆ 数学 ✕ 英語(聞-読-書)

< 学力調査結果の概要 >

○国語について

→平均正答率は、大阪府と全国平均を上回っています。「読むこと」は、全国平均を下回っていますが、それ以外は全て上回りました。

○数学について

→平均正答率は、大阪府と全国平均をかなり上回っています。また、全ての観点で全国平均を上回っています。

○英語について

→平均正答率は、大阪府と全国平均をかなり上回っています。また、全ての観点で全国平均を上回っています。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度は中止(東日本大震災)、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

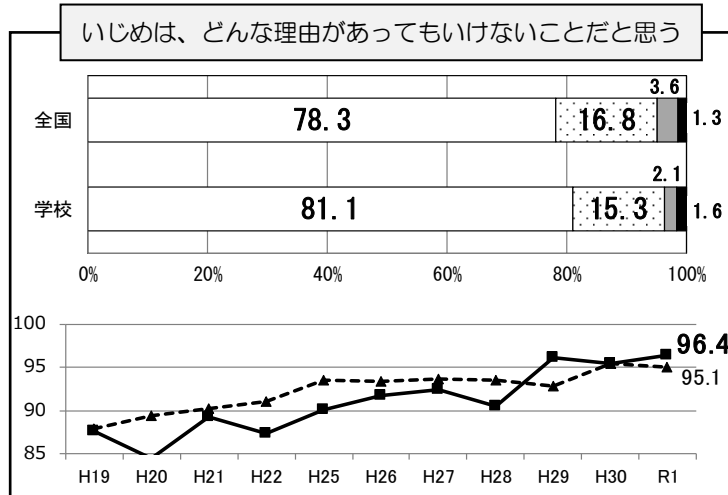
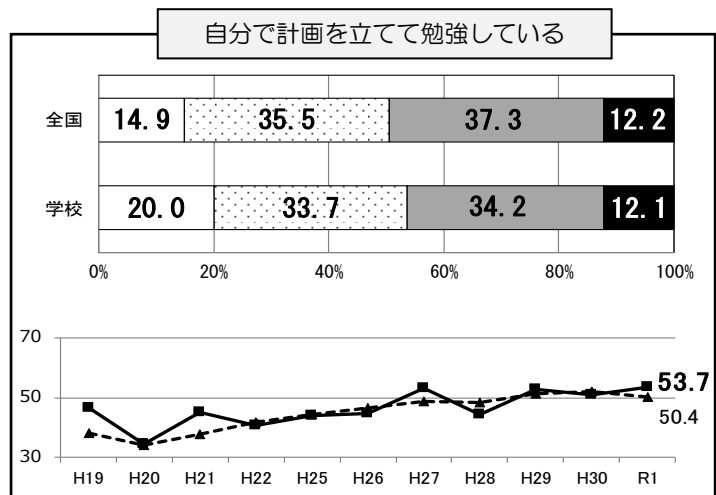
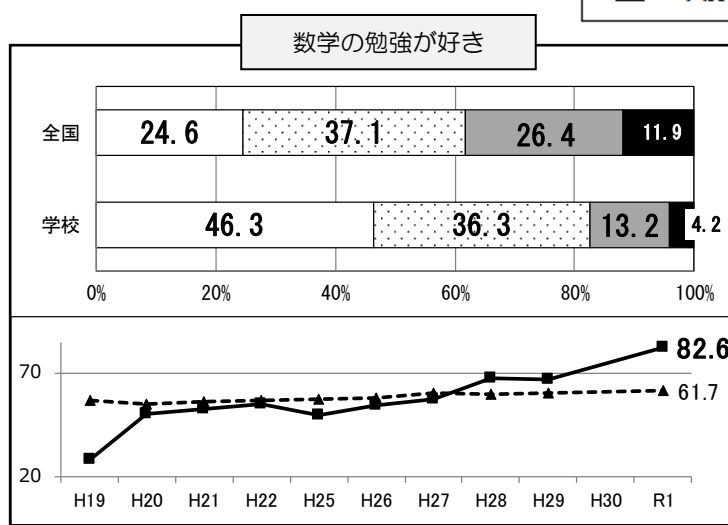
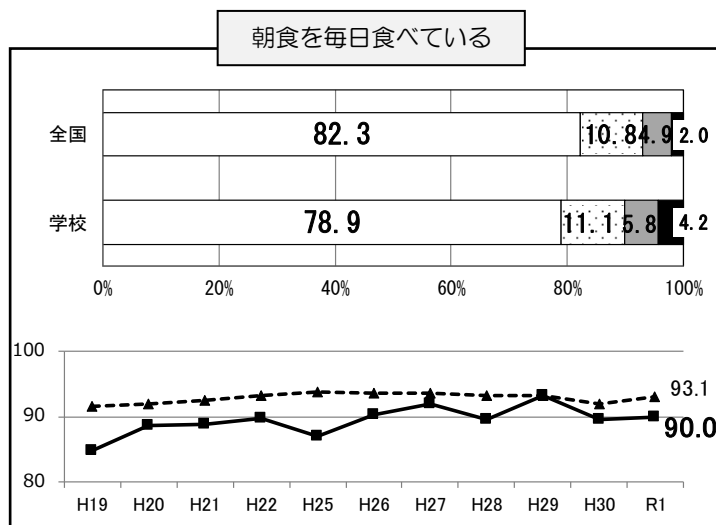
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

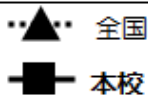
- 学習に対する関心・意欲・態度→肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- 生活習慣→肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- 学習習慣→肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- 規範意識→肯定的な回答が全国平均を上回っています。

まとめ

規範意識の向上と生徒主体の授業づくりや「書くこと」の取組、コンピュータや書画カメラなどのICT機器を利用した授業、「自主学習ノート」などにより学習に対する関心・意欲・態度が高まったことにより、今年度の「学力調査」は全て全国平均を上回った。「学習規律」や「授業改善」「家庭学習」「学習会」などの取組を行ってきた成果だと考えられる。長年の本校の課題である学習習慣については、毎年定着しつつありますが、生活習慣と同様さらなる改善が必要で、引き続き、保護者の皆さまのご協力をお願いします。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

質問紙に関する調査



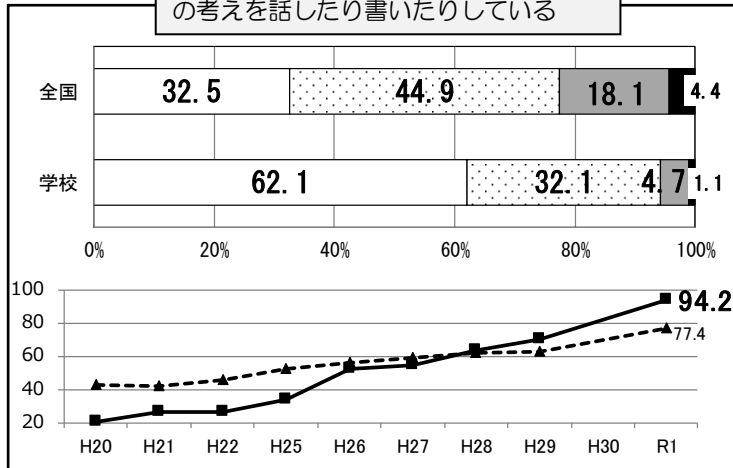
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

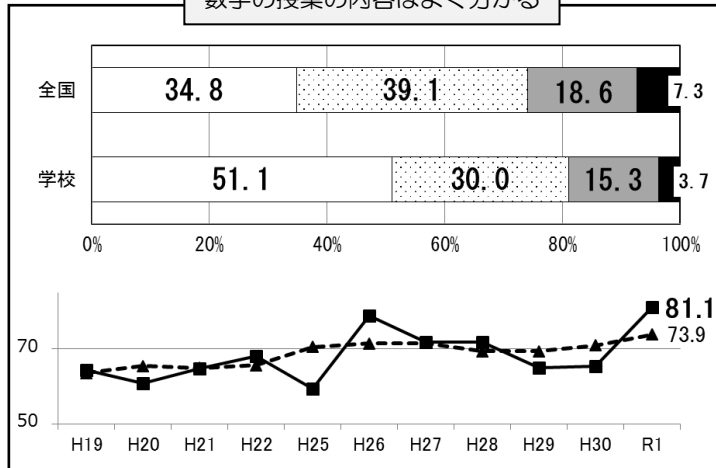
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

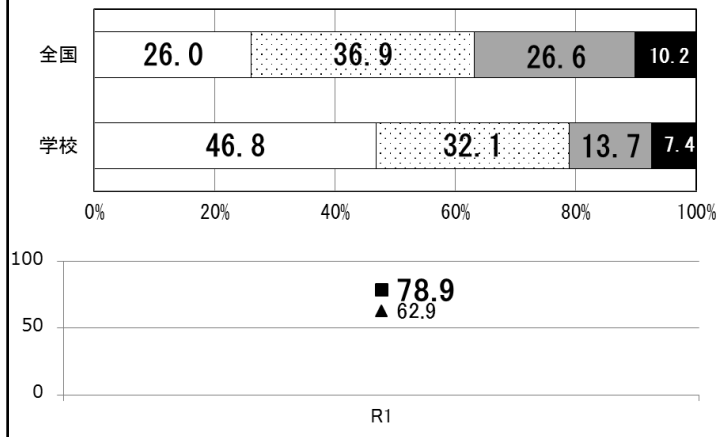
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている



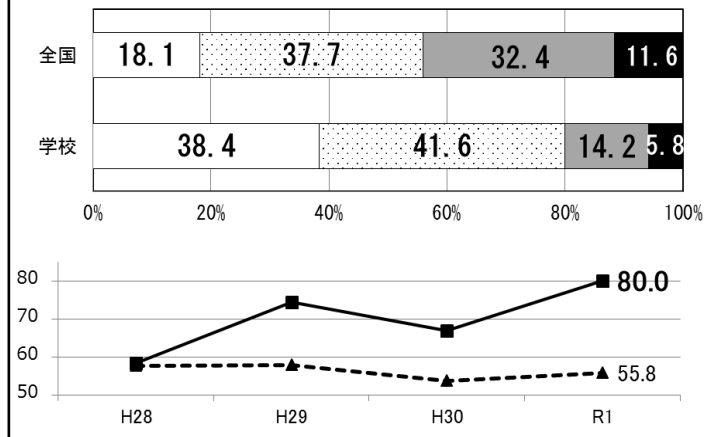
数学の授業の内容はよく分かる



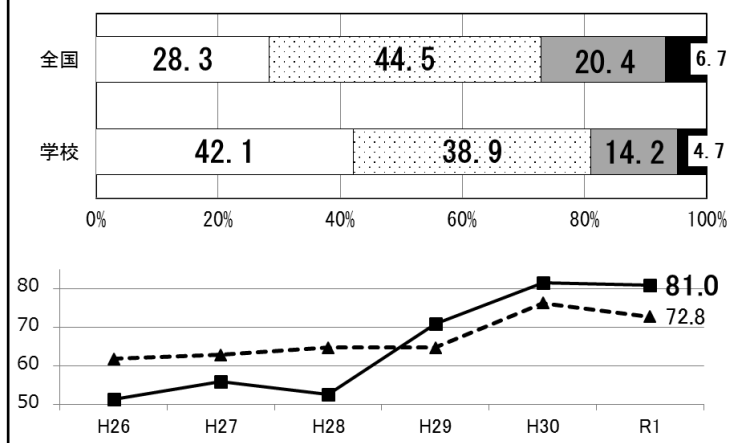
原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う



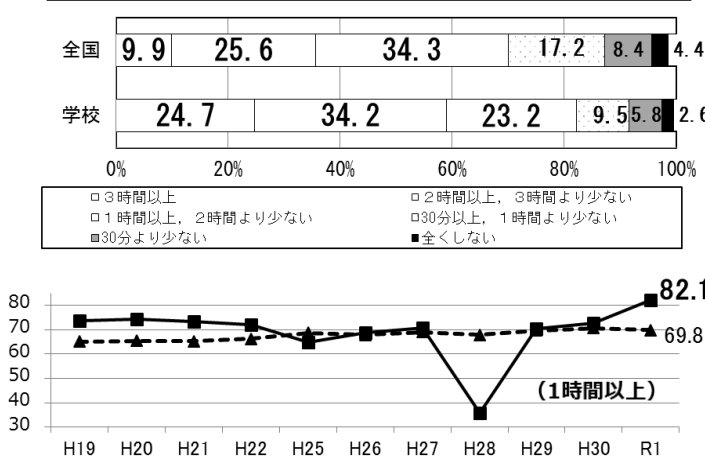
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う



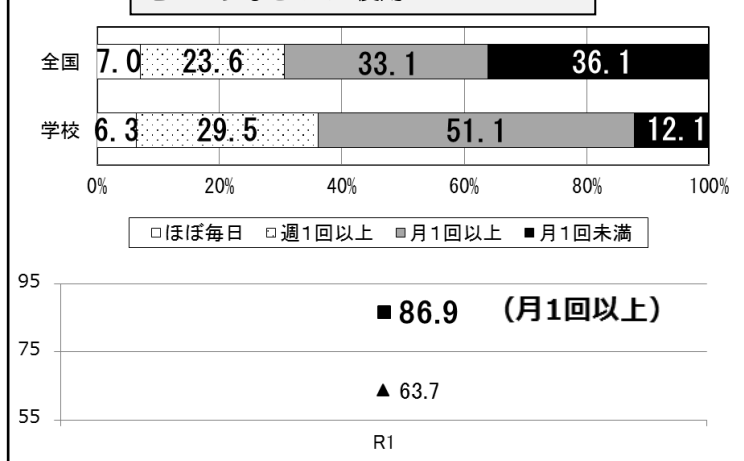
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを
深めたり、広げたりすることができていると思う



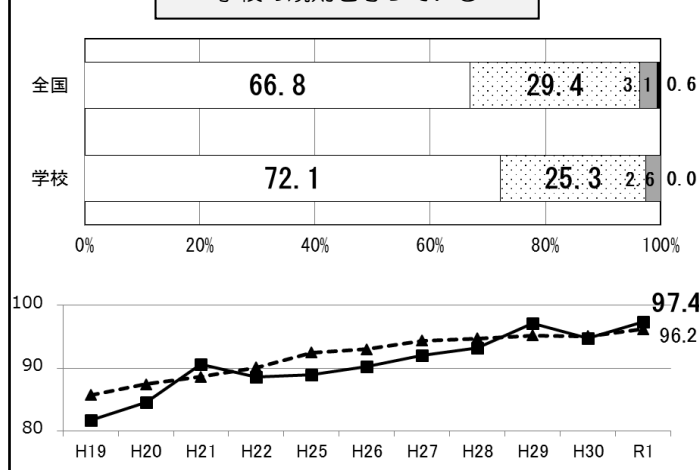
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりの読書の時間



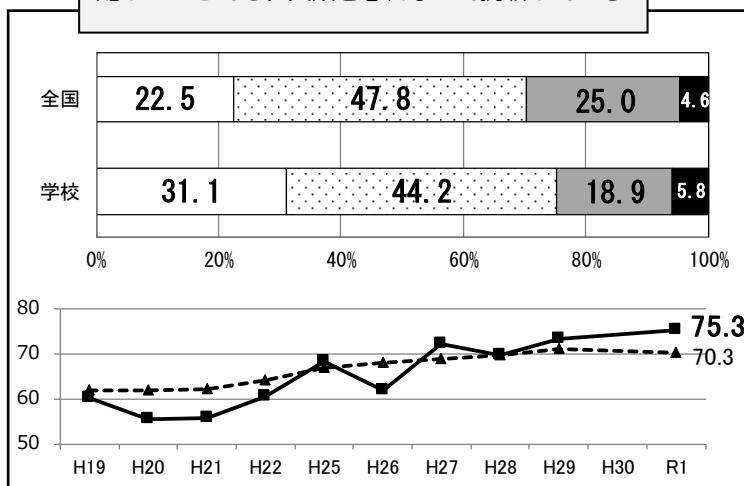
1.2年生までに受けた授業でのコンピュータなどのICT使用



学校の規則を守っている



難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している



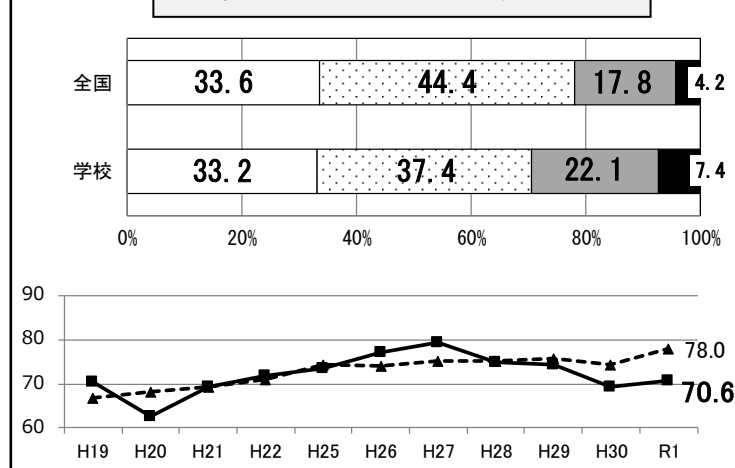
(考察)

学習に対する興味・関心等の質問については、全て全国平均を上回り、学習意欲が高いことが分かる。これまでPTAの協力でスクリーンなどを購入していただき、教員がICT機器を活用しやすくなったことも学習意欲や理解度を高めていると考えられる。今後、授業で大切にしていける項目についても全国平均を上回っている。規範意識が高くなってきたことが落ち着いた学校となり、良い学習環境となっている。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」が今後も高い肯定的な回答となるよう、生徒にとって良い課題を与えていきたい。

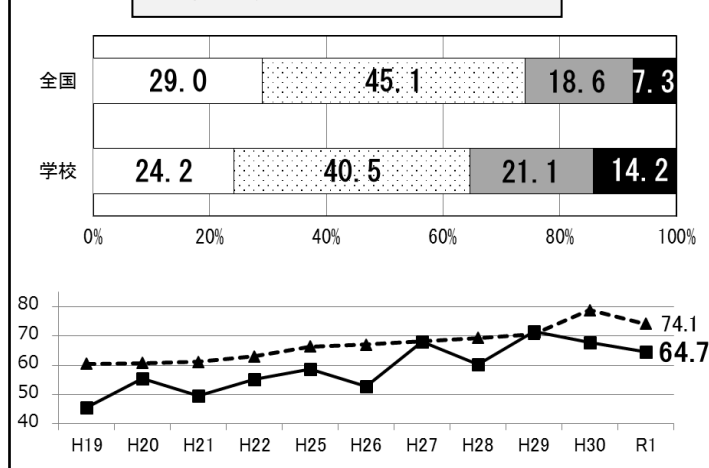
【課題が残った項目】

▲ 全国
■ 本校

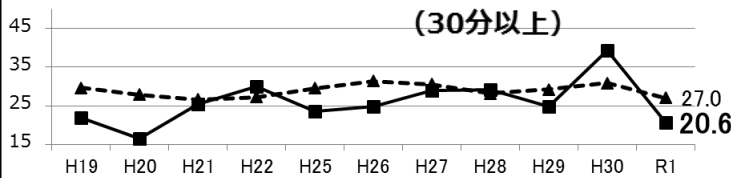
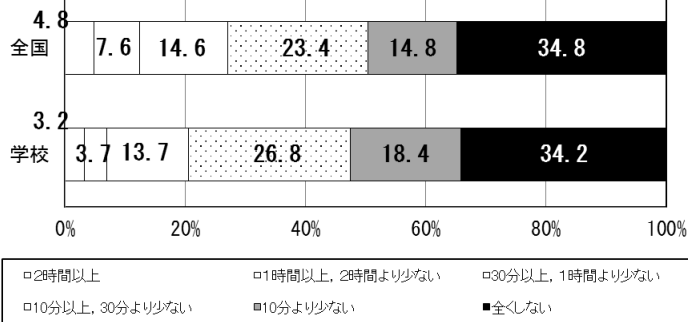
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



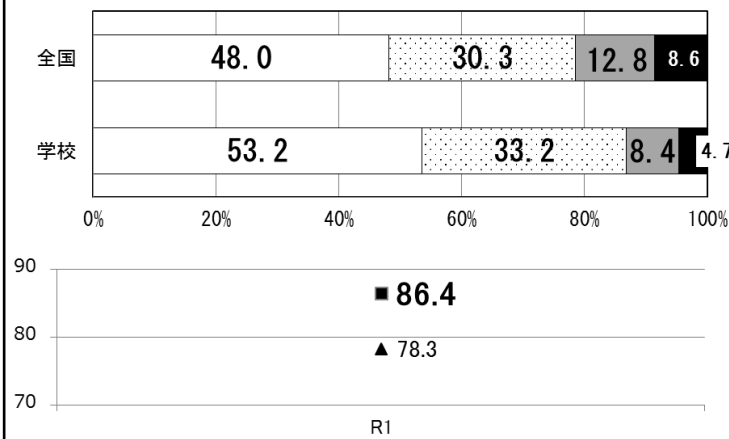
自分には、よいところがあると思う



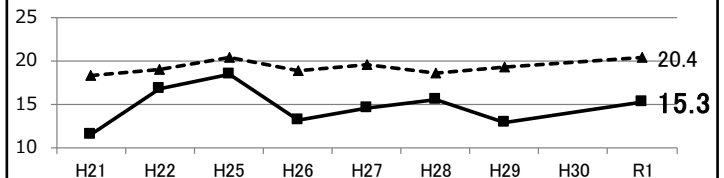
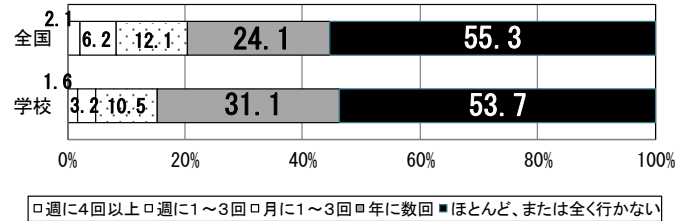
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりの読書の時間



授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか



昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行く頻度



(考察) 三中の課題として生活習慣が挙げられる。学力調査の結果と、生活習慣や学習習慣の結果には相関関係があると言われているように、「習慣」を改善していく必要がある。「自分には、よいところがあると思う」が全国平均より極端に低い。少しのことでも自分を褒めることや周りの大人が自己肯定感を高める声かけなどが必要である。読書習慣にも課題がある。読書は、語彙力や思考力、想像力などを高めるだけでなく、一生で経験できないようなことも疑似体験でき、物事を多角的にとらえることができ、問題解決能力も身に付けることができるので、読書習慣の改善は必要である。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

引き続き「生徒主体の授業づくり」をテーマに、教員による1学期1回以上の公開授業を行い、Hirakata授業スタンダードに基づいた「主体的・対話的で深い学び」の授業の研究を行い、授業改善を行っていきます。課題である「書くこと」の取組として週1回、作文の時間を設け、生徒にテーマを与え、文を書くことについて慣れさせ、苦手意識を克服し、書く内容の質の改善も行っていく。また、学習低位層の生徒には、授業中のきめ細かな指導を行うだけでなく、放課後や個人懇談期間中などに自習学習室を活用しながら指導を行います。

(2) 学習規律について

小中一貫による小学校と連携した規律を徹底します。また、生徒のチャイム前着席指導や教師のチャイムと同時に開始の授業、全教員による授業前後の見回りによる授業が始まるまでの規律の徹底を図っていきます。

(3) 家庭学習について

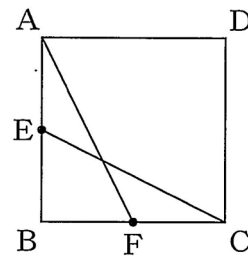
全国学力学習状況調査の結果分析から「小中一貫家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布します。また、計画的な宿題や課題の質や量を充実させ、家庭学習の機会をつくっています。引き続き、小学校で行っている自習学習ノートを継続して取り組み、家庭学習の推進を図っていきます。

【成果】

証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している

- 7 右の図1のように、正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとします。真由さんは、線分AFと線分CEについて、次のことを予想しました。

図1



予想1

正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 予想1が成り立つことは、次のように証明することができます。

証明

$\triangle ABF$ と $\triangle CBE$ において、
正方形の4つの辺はすべて等しいから、

$$AB = CB \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

点E、Fはそれぞれ辺AB、BCの中点だから、 $\textcircled{1}$ より、

$$BF = BE \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

共通な角だから、

$$\angle ABF = \angle CBE \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{1}$ 、 $\textcircled{2}$ 、 $\textcircled{3}$ より、 がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABF \equiv \triangle CBE$$

合同な図形の対応する辺は等しいから、

$$AF = CE$$

正答 2組の辺とその間の角

上の証明の に当てはまる言葉を書きなさい。

(考察)

証明の書き方や合同条件について、少人数授業できめ細かい指導を行った結果が表れている。どの部分を証明の根拠にしているのか、図をもとに考え、書き込む指導を行ってきたため、安易に直角があるから直角三角形の合同条件を使うと考えるのではなく、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいということに注目することができていた。

今後も、単に書き方を教えるのではなく、図をもとに色分けするなど工夫しながら、根拠は何かを考えさせる指導を行っていく。

【課題】

グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる

- 6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫 A	冷蔵庫 B	冷蔵庫 C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1 年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

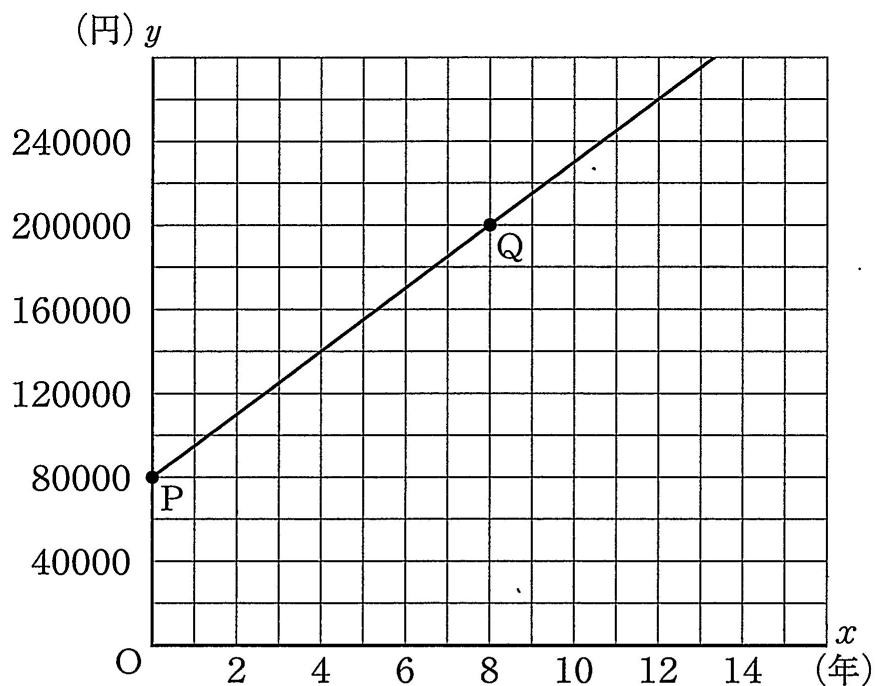
健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\begin{array}{c} \text{1 年間あたりの} \\ \text{電気代} \end{array} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

- (1) 冷蔵庫Aを購入して x 年間使用するときの総費用を y 円とします。この x と y の関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。

冷蔵庫 A の使用年数と総費用



このグラフにおける x 座標が 0 である点を P, x 座標が 8 である点を Q とします。点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差は、冷蔵庫 A についての何を表していますか。下のアからオまでのの中から正しいものを 1 つ選びなさい。

ア 本体価格

イ 使用年数

ウ 1 年間あたりの電気代

エ 購入してから 8 年間の電気代

オ 購入して 8 年間使用するときの総費用

正答 エ

6 (1)	正答率	無解答率
本校	39.8	0.5
全国	38.8	0.3

(考察)

与えられたデータから、どのような条件のときに、どれが安くなるかなどを、関数を用いた根拠をもとに説明していく問題であった。今後に向けて、式・グラフ・表の関係（式からグラフ、表をつくるなど）を意識した技能的な教材だけではなく、グラフの傾きや、 x 軸、 y 軸がどのような意味を表しているかを考える機会を増やしていきたい。実生活と関数の関係に着眼した教材の選定を教科部会を中心に深めていく。

<英語>

成果や課題があった設問

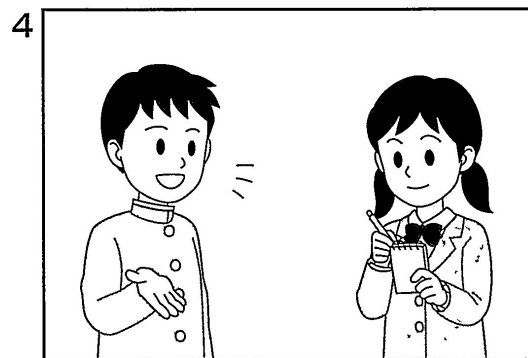
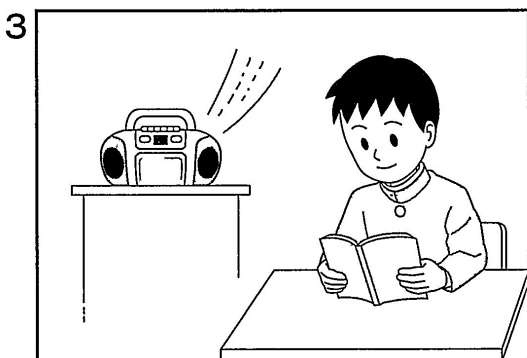
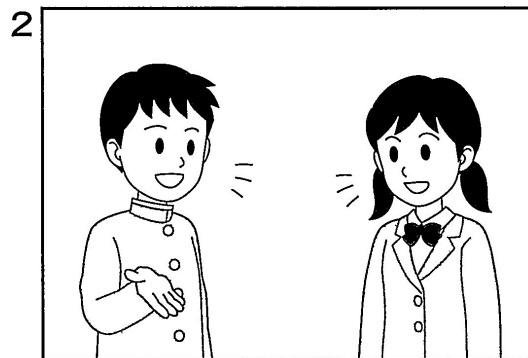
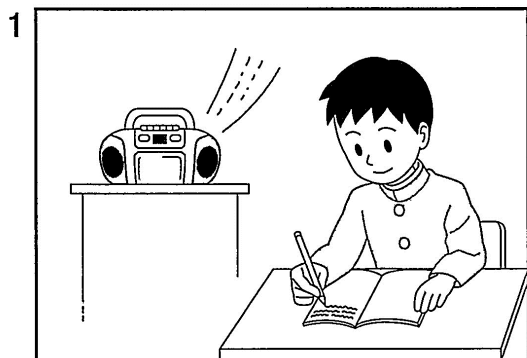
【成果】

英語を聞き、適する絵を選ぶ

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(2)



放送内容

(2) Listen to the CD and write your ideas in your notebook.

正答 3

1 (2)	正答率	無解答率
本校	96.8	0.0
全国	88.6	0.1

(考察)

本問題だけでなく、英語を聞いてその内容に合う絵を選ぶ問題は全体的に正答率が高かった。簡単な内容の英文であれば、内容を捉えられる力がついていると考えられる。この傾向が続くよう授業でも本文導入前に教科書本文の内容を捉えるリスニングを行うことや英語で授業を進めることで、英語で話された内容を捉える練習を引き続き行っていく。

- 8** 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)

project: 事業 waste: ～を無駄にする rice ball: おにぎり

not only ～, but also …: ～だけでなく, …も

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

解答例

- We don't waste the food in our school lunch.
- We don't waste our dinner.
- We should not buy too much food.
- If I can't eat everything, I can share it with others.
- We should give food to poor countries to help hungry people.

8	正答率	無解答率
本校	17.2	22.0
全国	10.9	27.9

(考察)

英語で書かれた資料を読み取り、その内容について自分の意見を書くという内容読解と表現力を同時に試される難易度の高い問題である。今後、長文問題においては従来の一問一答形式の問題でなく、このような自分の意見を英語で簡潔に表現できる力がより求められていくと考えられる。授業において、生徒自身の考えを表現させる機会を持つとともに、発表する機会を多く持ち、自分の考えを表現する力の育成を行っていく。

＜国語については、最終ページよりご覧下さい＞

三 場面③の **A** で山下さんは、「どうするか決まっていなかったこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、

どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなかったこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていなかったこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

解答例

・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すかについてです。私は、文化祭に来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がりください。」のように直すとういと思います。皆さんはどう思いますか。

・「土足禁止」という表現をどのように直すのかについては、「土足のまますがすることは禁止しています。」とするのがよいと思います。

・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すかが決まっています。 「禁止」を言い換えた言葉を一人ずつ挙げてみませんか。

2 (3)	正答率	無解答率
本校	60.5	8.6
全国	60.4	8.9

(考察)

今回の問題の中で、最も無解答率が高かった問題であった。確実に書く力についてはいるものの、今回の問題のように書く条件が複数あり、それを満たしながら文章作成することは難しかった。

授業で、複数の条件があるなどの問題に対してひとつずつ明確に指導をしていく必要がある。そして、問題に対して、自分の身近なことに結びつけ、それを具体的に表現できるような指導も引き続き行っていく。

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かずに驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん

西野さん

ネットにそのようなニュースが出ているのですね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

山下さんも気になっていたのですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

倉田さん

西野さん

山下さん

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなことがあつあります。

A

2

第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、【話し合いの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（場面①から場面③は、連続した場面です。）

【話し合いの一部】

場面①

話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く

〈議題〉

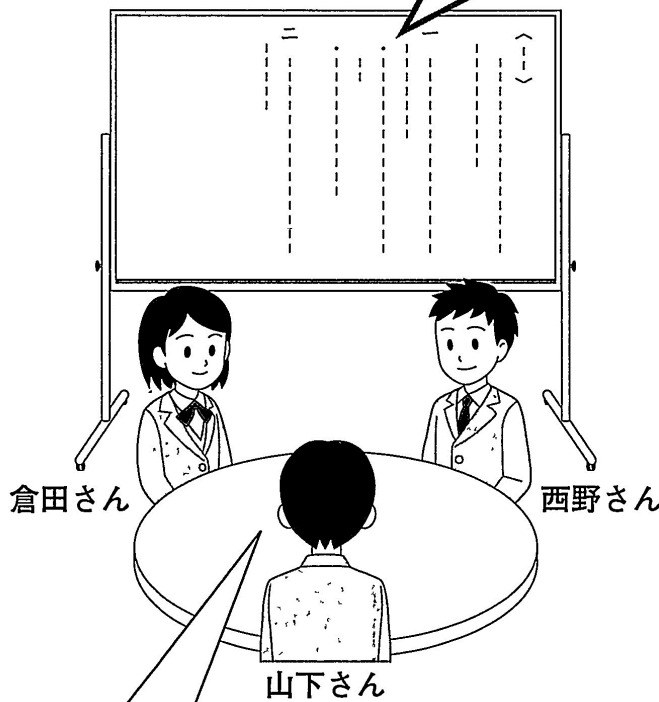
地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために

一 生徒会が地域で行っていることについての展示

・ 高齢者向けの施設での交流会の様子

・ 地域の清掃活動の様子

二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮



「生徒会が地域で行っていることについての展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

3 (2)	正答率	無解答率
本校	84.9	6.5
全国	77.8	7.9

(考察)

これまでの国語の学習では「書く」力を養うことを重点目標として行ってきた。各単元で必ず自分の考えをまとめるよう指導を行ってきたが、2年生時、自分の文章は自分が納得いくものでなく、相手がいて、読みやすい文章であることが必須であるということを強く伝えてきた。「相手にわかりやすく」するためにどのようなことば選びや、書き方が適切なのかをよく考えて取り組んできた成果が表れてきた。

今後も「書く」ことに重点を置き、自分の表現が相手に伝わりやすいものかどうか、ペア学習やグループ学習をとおして評価し、自分で推敲できるよう取り組んでいかせたい。

解答例

・ 回答者全体の七十二パーセントが挙げている「必要なものが近所で手に入る」ことも地域の店の魅力だ。

・ 「顔なじみの店員がいて安心できる」という意見が三十五パーセントある。インターネットでの買い物とは異なり、店員と直接顔を合わせたり会話をしたりしながら買い物を楽しめることも、地域の店の大きな魅力であると考えられる。

・ 約三割の人が「高齢者への配慮がある」と感じており、超高齢社会を支える大切な役割が地域の店にあるのだと思う。

書き出し

二 青木さんは、【意見文の下書き】の——線部「魅力」の具体例に自分の体験を挙げるだけでは足りないと考え、【広報誌の一部】にある情報を用いて②のところに文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の書き出しに続けて、【広報誌の一部】を見ていない人にも分かるように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する

3

青木さんは、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた【意見文の下書き】と、読み返したあと新たに取材して見付けた、青木さんが住んでいる地域の【広報誌の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選ぶ上、重い荷物を持たなくてよいからだ。母も「便利になった。」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではのことだ。しかし、^①皆が買い物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいったいどうなってしまうのだろうか。

地域の店はこれからも必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買い物にはない魅力があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。

^② 我が家でも買い物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。